

ハノイ便り 第2号

皆さん、こんにちは。ハノイレター第1号を作成してから、大分日が経過してしまいました。昨年4月にベトナムのハノイにある、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの指導助手として勤務している19期の井上貴子です。日本語教育研究科では、池上摩希子教授の指導のもと、高校留学生を対象に研究を行ってきました。

早くも、ハノイに赴任し1年が経ちました。赴任当初は、社会人としての厳しさ(今でも感じています…)や言葉も何も分からない中での生活に、苦労は絶えませんでした。1年経った今、徐々に仕事や生活にも慣れ、日本語を教えるだけではない貴重な経験ができる場を与えていただいたことに大変感謝しています。

今回のハノイレターでは、私が担当している※1中学校での授業について記述していきたいと思います。

※2012年9月～2013年6月までの授業

メニュー

- ★ベトナムの中等教育
- ★ベトナムの学校制度
- ★授業当日までの流れ
- ★日本の文化紹介
- ★ハノイでの課題



蓮の花ツアー
隣はベトナム語の先生

「ベトナム料理ベスト3」
「私のベトナムでの楽しみ」
「残りの任期で体験してみたいこと」
「ベトナムのあれこれ」もあります！



ベトナムにはたくさんカフェがあります。決まったカフェにしか行かないので、色々なカフェを開拓中です。



ベトナムの中等教育

ベトナムの中等教育においては、2003年よりハノイ市の中学校で日本語教育が開始され、2005年からはハノイ、フエ、ダナン、ホーチミンの中学校で、第1外国語科目としての日本語教育が始まりました。また、2007年からは日本語を学ぶ中学生の高校進学に伴って、高校での日本語教育も始まり、2012年学年度時点で4747名(中学校3408名、高校1339名)の中高生が日本語を学んでいます。

私は、ハノイ市内にある、Thuc Nghiem 中学校、Ly Thung Kiet 中学校、Trung Vuong 中学校、Lomonoxop 中学校(2週に1回)、Le Quy Don 中学校(1カ月に1回)で、週12コマ(1コマ45分)の日本語授業をカウンターパートであるベトナム人教師3名(以下:CP:A,CP:B,CP:C)と共に、チームティーチング(以下:TT)で授業を行っていました。教科書は、ベトナムの教育訓練省が規定した教科書『にほんご』を使用しています。



「にほんご8」を使って授業



中学校の教科書

ベトナムの学校制度

- 6歳～11歳 初等教育 1年生～5年生(5年制)
- 11歳～15歳 前期中等教育 6年生～9年生(4年制)
- 15歳～18歳 後期中等教育 10年生～12年生(3年制)
- 18歳～ 高等教育

ベトナム料理ベスト3

私の中でのベスト3です

3位

チェー(ぜんざい)

白玉やあずきや寒天やプリンなどがたくさん入っていて、氷と一緒に食べます。食後のデザートとしてよく食べます。



2位

朝ごはんには、このおこわを買って職場で食べる人が多いです。もち米なので、腹持ちが良くとてもおいしいです。



おこわ

1位

海鮮春雨炒め

エビや貝や野菜と春雨を炒めた食べ物。昼や夜にお持ち帰りをして食べることが多いです。このボリュームで100円！





←日本の文化紹介用資料
テーマ「お正月」

授業当日までの流れ

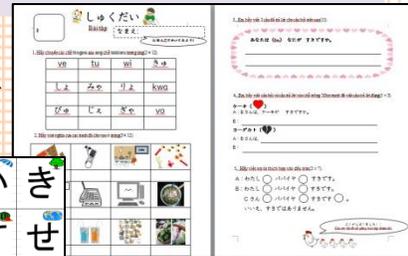
授業準備は、CP が考えた授業のアイデアや活動をもとに、授業の前日までに、1 時間程の打ち合わせを行っています。打ち合わせの内容は、CP によって異なりはありますが、授業内容の決定や授業や授業準備の役割分担を決めています。また、日本語教授歴の少ない CP に関しては、教える課の文型や語彙の意味や発音の確認というように、CP に対する日本語指導も行っています。私が行う授業準備としては主に、授業で使用する絵カードや単語カード、練習問題(漢字練習、教科書の文型をもとにした練習問題)、活動で使用する教材(ビンゴシート、賞状、カルタ等)やテスト(復習テスト、期末テスト、宿題テスト)の作成を行っています。

現在は、私や他の日本人教師が CP と一緒に授業の計画から実施までをサポートしていますが、CP 自身が授業の内容を計画し、生徒の日本語力に合った教材とは何かを自分で考え作成することができる、つまり、教師の自立を目指した支援を行うことが、ハノイの中等教育の目指すべき目標ではないかと考えます。

日本の文化紹介

また、1 カ月に 1 回、日本文化の紹介を行っています。これまで、「子どもの日」や「ひな祭り」そして「日本のお正月」を紹介してきました。さらに、新聞紙で「かぶと」を折ったり、折り紙で「切り紙」や「子豚」「ねこ」を作ったり(しりとり歌「こぶたぬきつねこ」につながります)、年明けには「年賀状」を書いたりしました。学習者が日本語の授業に飽きないよう、CP と相談して、どのような日本文化の紹介を行うか決定をしています。

宿題プリント→



←「ひらがなカルタ」



こぶたぬきつねこ... 1 クラス 50 人! 毎日元気に日本語を勉強しています。

日本の制服を着ました!



折り紙で「こいのぼり」上手に切り紙できたかな? を作りました。

私のベトナムでの楽しみ

私の楽しみは、「エステ」です。日本で「エステ」と聞くと「何と贅沢な!!」と思われるかもしれませんが、ベトナムでは 1000 円弱でエステを楽しむことができます。終わった後は、たまにヒリヒリしたりニキビを潰されて痛い思いをしたりすることもあります。このエステを楽しみに日々の業務をがんばっています。

残りの任期で体験してみたいこと

残りの任期で体験してみたいことは「路上エアロビ」です。ハノイにはたくさん湖があります。夕方になると大音量の音楽と一緒に、湖の周りでおばさま達が必死にエアロビをしている姿をよく見かけます。その光景はともとても面白くなぜか元気をもらうのです。たくさんのバイクの排気ガスを吸いながらエアロビをするのは、果たして体に良いのか悪いのか分かりませんが、日本に帰るまでに一度、おばさま達と一緒にエアロビを楽しみたいものです。

★ベトナム人は占い好き

結婚相手も結婚する時期も占いによって判断するそうです。結婚しようと思っている相手を占ってもらい、もし占いに反対されたら「別れる」と同僚のベトナム人が言っていました笑。

★ベトナムの自己紹介

初めて会った人には必ず「名前」の他に、「年齢」「結婚しているのか」「子供は何人なのか」「給料はいくらか」を聞かれます。私たちがからすれば「何て失礼な!」と思ってしまっても、ベトナムでは普通に聞かれます。タクシーに乗ると、タクシーの運転手にも聞かれます。「結婚していない」と言うと、「紹介してあげる」と初めて会った人に言われることもあるので、面白いですね。

★お釣りは〇〇

スーパーで買い物をして、お釣りが 500 ドン(約 2 円)とか小さい単位の時、なぜか釣を渡されます。釣がお釣りの代りのようです。

★午後の授業を元気に受けるために大切なこと

お昼を食べた後は必ずお昼寝をします。中学校でもお昼寝の時間があり、生徒が机の上にゴザを敷いて、その上で寝ている姿を良くみます。かわいいです。

★授業の終わりの合図

日本ではチャイムが授業の終わりを知らせてくれる合図ですが、ベトナムの中等学校では、警備員が鳴らす太鼓が授業の終わりの合図です。タイコのリズムも決まっているようです。初めて聞いた時は驚きました。



ハノイの路上エアロビ!!



机の上にゴザを敷いてみんな一緒にお昼寝をします。

ハノイでの課題

ハノイに赴任して、早1年が経過しました。赴任当初は、自分ひとりではなくCPと一緒に授業を計画し実施することに精いっぱい、その日に行った授業や授業に参加している学習者一人ひとりを見ることができていませんでした。

◆CP:3と一緒に授業を行う中での問題

2012年9月から新学期から始まり、CP:Aに加え、新たに2名(以下、CP:B,CP:C)のベトナム人日本語教師と一緒に授業を組むようになりました。CP:Cと一緒に6年生の授業を計画・実施していく中で「私は何をCP:Cに教えることができるのか」「私と一緒に組んで、CP:Cは日本語教師として成長できるのか」「果たして私は何のためにハノイにきたのか」を考えるようになり、これまで見ていなかった様々な問題に直面するようになりました。CP:Cは、いわゆる新人教師であり、これまで私が一緒に組んできたCP:AとCP:Bと違い、授業の計画から実施までを全て一緒に行っています。時間をかけてCP:Cと授業の計画はしているものの、実際の授業を行ってみると、計画段階では見えなかった様々な問題があることに気付くようになりました。

例えばCP:Cは、生徒が十分に内容を理解していない、また、生徒が授業中大きな声で友達とお喋りしていても注意せずに先へ進めたり、特定の生徒しか指名しなかったり、つまり、生徒がどこまで授業の内容を理解しているのか、生徒は今何をしているのかという、生徒一人ひとりを見ることができていなかったのです。クラスの数も52名と多いため、CP:Cは、クラス全員を見る余裕がないことや教科書を早く進めたいという思いがあったのでしょうか。

◆CP:Cの目指す実践との異なり

そこで、授業の計画では、2コマ(45分×2)の授業内容の決定だけではなく、生徒のレベルや状況を見て授業を進めるような提案を行っていましたが「時間がかかります。教科書が学期中に終わりません」と言われることもあり、お互いが目指す実践に異なりを感じていました。CP:Cは、1学年の間に、教科書の課を終わらせることしか考えていません。このままではいけないと思っても具体的な解決方法が見つからず「私は何をCP:Cに教えることができるのか」「私と一緒に組んで、CP:Cは日本語教師として成長できるのか」「果たして私は何のためにハノイにきたのか」を思うようになったのです。

◆池上摩希子教授のアドバイス

昨年11月に、池上摩希子教授がベトナムでの年少者日本語教育の現状把握と比較を目的にハノイに来てくださいました。そして、CP:Cの授業に参加し、大勢の生徒を活かした活動案や授業時間内だけでは補うことができない能力を授業時間外でどうやって補うことができるのか、また、授業中の教師の動きや授業を行ううえでの注意点など、貴重なアドバイスをたくさんいただきました。

私は、池上摩希子教授のアドバイスから「この活動を行いどのような学びを得られるようになってほしいのかを考えた授業を設計することができていなかった」ということに気付きました。「この活動をする生徒は喜ぶ」というような理由だけではなく、一人ひとりの生徒を見てどのような活動が必要なのかを考えながら授業を設計していかなければ、生徒の状況に合った授業を行うことができません。そのためにも、生徒の日本語レベルや授業の理解度を見るが必要になります。

私は、※2「わせだの森」を受講し、一つひとつの活動を設計・実践していく中で常に考えていた「この活動をしてどのような学びを得られるようになってほしいのか」が、ハノイの現場では活かされていないのではないかとということにようやく気付くことができたのです。日々の授業を行い、それで終わりではなく、もっと自分が行った授業を客観的に見つめ直すことが必要だと思いました。

◆これからの目標

これからの授業では、生徒の能力に合った授業を行うためにも、私もCP:Cも一つひとつの活動は何のためにやっているのか、生徒にどのような学びを得られるようになってほしいのかを考えてCP:Cと一緒に設計・実践していきたいです。CP:Cは、教科書を終わらせることに重きを置いているため、そうではなく、生徒一人ひとりを見ることができるようになることが大切だとわかってもらいたいです。そういった支援が、CP:Cには必要なのではないかと思えます。そのために私はどうすればよいのでしょうか。「この生徒は、こんなことができた！この生徒はこんなことができなかった」というような生徒の変化をCP:Cに伝えるようにし、生徒の状況や生徒のことにもっと興味を持ってもらえるように働きかけていきたいです。

また、授業が終わり、授業について振り返る時間はありませんでしたが、授業が終わった後、少しの時間でも「今日の授業はどうだったのか」を振り返る時間を作りたいです。授業が終わって終わり、ではなく、授業をしてみてどうだったのか振り返ることができると、次の授業にも繋がるのではないかと期待しています。少しずつ、変わることができるよう、努めていきたいです。

修士論文では、日本語学習者と「向き合う」ことの重要性について述べました。しかし「向き合う」ことは非常に難しいことだと、実際の現場に出て、現地のベトナム人日本語教師と生徒と一緒に授業をしてみて痛感しました。初めて海外の日本語教育の実態を知り、そして初めて、長期的に海外の日本語学習者とベトナム人日本語教師と一緒に授業を作り上げる経験を重ねていく中で、本当の「向き合う」ことは何かを考えるようになりましたが、ハノイに来て1年、まだ答えは見つかっていません。

本当の「向き合う」とは何か、そして「私はベトナム人日本語教師の成長のために、何ができるのか」をこれからも実践を通して考えていきたいです。

※2：2011年春学期に「わせだの森」を受講しました。
「わせだの森」の詳しい情報を知りたい方は[こちら](#)をご覧ください。



お読みいただきありがとうございました。
任期中に、次号も配信したいと思います。